

研修報告書 No.35

所 属： 横浜市立大学附属病院

研修先： 大井田病院

私は高知県宿毛市の大井田病院で地域研修を行いました。宿毛市は人口 2 万人弱と人口減少傾向にある自治体で高齢化率も 40%と進んでいる地域になります。宿毛市の医療は主に大井田病院と幡多けんみん病院、その他医療機関で支えられています。私が携わったのは一般外来、訪問診療、現場出動及び病棟の入院患者さんでした。

一般外来では定期でかかっている患者さんに、糖尿病や高血圧といった生活習慣病の薬を調整しつつ、聴診や超音波での簡易な診察で疾患のスクリーニングを行い、必要に応じて CT 等の精査を行います。呼吸苦で来院した患者さんで、レントゲンと CT を用いて肺癌を見つけ、上級医の指導のもと胸水をその場で抜いた方もいました。その方は高知大学医学部附属病院へ紹介となり治療を継続しています。また、一般外来では骨折や巻き爪、関節痛などの外科処置が必要な患者さんも多く来院します。院長指導のもと、ゲネプロで来ている上級医の先生と一緒に専門外の処置も勉強しながら、ギプスや整復等の手技を習得することができました。今後の地域医療において、医師の偏在への対策として、専門外の分野まで視野を広げ医療を学ぶ必要があると感じました。

訪問診療では訪問先の患者さんそれぞれの特性に合わせて工夫しながら診療に臨みました。終末期の患者さんの疼痛コントロールや訪問先での褥瘡処置、エコーを用いた状態評価など実践的な医療を学びました。また、訪問先で患者さんの旦那さんに元気がないことを院長と看護師が気づき、採血したところ中枢性副腎不全が見つかった事例がありました。普段の訪問診療から患者さんだけでなく家族とコミュニケーションを取り、地域密着型の医療を実践している功績だと感じました。

現場出動では自宅での CPA のケースや、「沖で人が浮いている」という様々な状況を想定しなければいけない要請等がありました。結果的には船酔いによる迷走神経反射疑いと診断されましたが、場合によっては三次医療に該当するような重症の患者さんへの対応も求められる過酷な現場だと思いました。スキルのあるチームだからこそこれだけ幅の広い医療を展開できるのだと思いました。

病棟では肺癌末期の患者さんの疼痛コントロールや喘息治療から、リハビリ療養の方まで幅広く診療にあたりました。普段の研修より長期での入院が多く、より患者さんに向き合う診療を考える機会になりました。高齢独居の患者さんが多く、一人でも暮らしていけるように地域のサービスや訪問診療等を活用しながら患者さんに向き合いました。病気に対する理解だけでなく、生活環境や退院後の生活まで見据えた医療がまさに全人的な医療だと感じました。

また休日の時間を利用し、沖ノ島での離島医療も学びました。人口約 100 人という宿毛市よりも更に人も資源も限られる離島で医療を展開していることに大変驚きました。自然がとても豊かな場所であり、観光含め島の生活の維持に取り組む重要性を感じました。先生方が交代で島に行き診療を行っており、必要十分な医療を提供しようと努力している姿に感銘を受けました。

最後にこのように様々な経験ができたのは、一重に院長先生をはじめとした指導医の先生方、看護師さん、スタッフの方々のおかげです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。私は来年から泌尿器科として研鑽を積んでいきますが、いつかもう一度宿毛市へ伺い、地域の医療に貢献できたらと思います。